

学びのストーリー（単元の流れ）

1 次	日本の食料生産の特徴は？① ◎関心を引き出す - 昔に比べ、肉類や小麦が増えて、魚や米が減っているよ。 - 米の消費量も生産量もどんどん減っている。 - こんなに生産が減って平気なの？米の生産について知りたい。
2 次	米の生産についてもっと知りたい！② ◎身近なものから学習問題をつくる - 米袋には産地や品種が大きく書かれているね。 - 米の産地調べの結果を見ると西日本の米は全然食べてないね。 - ぼくたちのクラスでは、寒い地域の米を食べている人がすごく多いね。なんで？米づくりがさかんだから？ なんで寒い地方は西日本より米づくりがさかんなの？③ ◎資料をもとに一般化する - そもそもクラスでの産地調べだけでさかんとはいえないよ。 - やっぱり作付面積も生産量も多いね。さかんだね。 - 新潟はやっぱり生産量がすごいね。なんでなんだろう？ なんで新潟はこんなに生産量が多いの？④ ◎気候や地理的条件に目を向ける - 平野が広くて、大きな川もあるから米作りしやすいんだよ。 - 冬の降水量が多いから、雪解け水が豊富にあるってことだね。 - 米づくりに適した条件がそろっているから生産量が多いんだ。 - でもさ、それだけで1位になれるのかな？ 条件がいいだけでは1位になれないんじゃない？⑤ ◎生産者の工夫や努力に目を向ける 1位になるには何か秘密があるでしょ。育て方がいい？ - その土地に合った品種を育てているから生産量が多い？ - 機械を使って効率よく育てているのかも？実際に調べたい！ 新潟の米作りの工夫や努力を調べたい！⑥～⑨ ◎個別最適な学び（調べたい内容を自分なりの方法で調べる） - 育苗の工夫 ・水の管理の徹底 ・品種改良 - 耕地整理 ・機械化による作業の効率化 など - 機械化が進んだのは、人がどんどん減っちゃったのも関係があるみたい。こんなに人が減って大丈夫なの？問題ないの？ 農業で働く人がこんなに減っていて大丈夫なの？⑩ ◎米作り（農業）の諸課題に目を向ける - 人が減っていったら、作る人がいなくなっちゃう。 - 耕作放棄地もこんなに増えている。食べ物なくなるかも。 - 小田原は大丈夫なのかな？
3 次	小田原の農業は大丈夫なの？⑩ ◎マクロからミクロへ（日本→小田原→曾比） - 小田原も経営農地が減って、耕作放棄地が増えている - どんどん農家の高齢化が進んでいる ・農業人口も減っている - なんで小田原清流の郷では、作付面積が増えているの？ 小田原市では米の作付面積がどんどん減っているのに、なぜ〇社（農業法人）では増えているの？⑪（本時） ◎人の営みを通して見る - 農地を増やして生産量を上げたい ・耕作放棄地を減らしたい - 多くの人に小田原の米の味を知ってほしい - 鋤持さんは、何百年も昔からあるこの農地を守りたいんだね。 これからもこの地域の田んぼを守っていくには、どうしたらいいんだろう？⑫ ◎ミクロからマクロへ（曾比→小田原・日本） - 農業の魅力や美しい風景をたくさんの人に伝えるために、～。 - 自分にできることは何か一人一人が考えていく。例えば、～。

授業デザイン

響き合う 資料を見て気付いたことを自由に発言できるようにあたたかい雰囲気づくりをする。ささいなことでも発言したことを価値づけて、発言する意欲につなげる。	
自己調整 その日の学びを振り返り、そこから自分なりの疑問をもったり、学習問題を自分たちで作ったりできるようにする	
手立てや概念 「寒い地域は米づくりがさかん」と本当に言えるのかを確認するためには、どんな資料が必要かを考えさせた上で資料を提示し、全体で確認するようにする。	
響き合う 話し合いの素地を整える - 使えた話型への価値づけ - 友達の考えからつなげて発言するという意識 - 発言に対する反応の徹底	
響き合う 新潟では、どんな工夫や努力をして米づくりをしていそうかグループトークで活発に意見交流をして、その後の全体共有につなげる。	
自己調整 自分が調べたい内容について、自分で調べ方を決め、追究していけるようにする。	手立てや概念 子どもの調べた内容を共有するだけでなく、押さえるべき生産者の工夫や努力は教師側が確認する。
手立てや概念 これだけ生産者が工夫や努力をしているのにも関わらず米の消費量・生産量が減っていること、耕作放棄地が増えてしまっていることもおさえる。	
手立てや概念 小田原市の農政課に提供していただいた資料を扱うことで、農業の問題を身近なものにする。	
手立てや概念 Kさんの取材記事を読むとともに、一言を取り上げ、自然と問いが焦点化されるようにする。	高め合う ただ意見を言うのではなく、資料・経験・身近な人へのインタビューなど、自分の考えの根拠を示して伝え合う大切さを学ばせる。
高め合う 自分たちが見出した答えのない問いについて、真剣に考え、アイデアを出し合うことで、自分の考えに自信をもったり、友達から新たな考えを取り入れたりできるようにする。	

評価規準／評価方法

【知識・技能】 新潟県の自然条件の特色と米づくりとの関係について、複数の資料を関連付けて読み取っている。	
【学びに向かう力・人間性】 - 新潟県の米づくりの工夫や努力について興味を持ったことを、自分なりの方法で調べようとしている。 【知識・技能】 - 米の生産者は、生産や品質を高めるために工夫をしたり努力したりしていることを理解している。	
【思考・判断・表現】 日本や小田原の農業に関する資料から現在の農業の課題を見出している。	
【思考・判断】 〇社（農業法人）の作付け面積が増えている理由について各種資料をもとに自分なりに考えている。	
【学びに向かう力・人間性】 小田原、日本の農業の諸課題を自分事としてとらえ、その解決に向け問い続けようとしている。	

願う子どもの姿

- 学びの原動力である「問い」を自分たちで見出し、対話的な学びを通して、その解決に向けて迫っていく姿。
- 〇社（農業法人）のKさんの思いに触れ、この地域の農地を守っていくにはどうしたらいいのかを自分事として考えられる姿。
- 地域から日本に視野を広げ、日本の農業についても問題意識をもち、よりよい日本にするにはどうしたらよいのかを自分事として考えられる姿。